

## 教師力向上支援事業派遣研修報告書

- 1 所属・職・氏名 富山県立富山北部高等学校・教諭・佐々木珠喜
- 2 研修期間 平成30年9月17日(月)～平成30年9月24日(月) 8日間
- 3 調査研究課題 アメリカ合衆国における人材育成と教育事情
- 4 研修機関等 シアトル：在シアトル日本国総領事館 訪問  
ビーコンヒルインターナショナル小学校 視察  
ジョンスタンフォードインターナショナル小学校 視察  
サンフランシスコ：サンリアンドロ高校 視察

### 5 研修の概要

#### 1) 在シアトル日本国総領事館

山田洋一郎総領事より、日本とアメリカにおける教育の違い、教育と社会の関係、教師に求めることについての話を伺った。

##### 【ワシントン州の教育制度】

アメリカの学校では、何をどのように教えるか各学校の校長に非常に大きな裁量を与えられている。2010年に全米レベル、州を超えての教育基準「Common Core State Standard」が設けられた。ほとんどの州が採用し、これに基づき教育活動を行っている。

学校の運営経費は、ワシントン州で州の予算：大体7割、地方税：2割、国からの補助：約1割。PTAによる募金活動が盛んで、それぞれの学校で必要なもの、学校行事費に充てる。

シアトル学区は、文化的にとっても多様で、児童生徒の話す言語は108ある。ワシントン州は日系人が多いため、日本語教育も盛んに行われている。

指導助手(教員免許がなくてもなれる)が学校ごとに採用されており、担任の仕事の軽減につながっている。

キャリア教育プログラムとして、サービスマーケティングやインターンシップが行われている。シアトル学区では、8年生(中学2年生)ぐらいになったときに「High School and Beyond Plan」という5年計画を立てる。内容としては、5年間の間にどういう授業をとりたいか、その授業が自分のキャリアにどうつながっていくかということを書かせる。自分の履歴書を書く欄もあり、それも5年間の間、定期的にチェックして変えたり、その時点での自分に合うように修正していく。

サービスマーケティングは、ボランティアと学習活動の実践を統合させたもので、シアトル学区の高校の場合、高校の卒業要件として60時間行うよう定められている。



#### 2) ビーコンヒルインターナショナル小学校

幼稚園から5年生までの児童が在籍している。全校生徒は410名。1学年70名前後。シアトル市内では、英語を第一言語としない児童数が最も多い学校である。そのため、バイリンガル段階プログラムが用意されており、一日の半分を他言語(中国語または、スペイン語)で学ぶことができる。しかし、実際在籍している生徒の半数は、中国語、スペイン語に限らず、その他の言語しか話せない児童が多いようで、学校では、英語を教えることに相当苦勞されているようだった。

授業は「オープンコンセプト」という考え方で行われていて、一つの空間に3つのクラスがあり、同時限に、同じ空間の中で、同じ課題を英語、中国語、スペイン語で行っていた。事前に教師同士が同じようなペースを進めるように相談し合って、授業を進めているようだ。



#### 3) ジョンスタンフォードインターナショナル小学校

幼稚園から5年生までの児童が在籍している。バイリンガル児童へのサポート体制が充実してい

る学校である。「イマージョンプログラム」が実施されており、授業の半分を英語、もう半分をスペイン語または日本語で行っている。実際に、日本語での小学校5年生の算数の授業を見学し、児童と話す機会があったが、日本語を第一言語としない児童が、日本語で算数ゲームの説明を行い、私の日本語による問いかけにも答えられるような状況であったので、とても驚かされた。シアトル学区では、日本語、英語のバイリンガル教育を受けられる学校は2校しかない。本校は、入学希望者が多く、今年78名の幼稚園児が入学した一方で、100名の児童が待機している状況である。地域でも大変人気のある学校のようにだった。



20年前の創立時から、テクノロジーを授業に積極的に取り入れている。幼稚園児からi-Padを触り、1年生からパソコンは一人1台使用できる状況である。児童は、Wordで文章を書いたり、webを使って算数の練習をしたりと、コンピューターを用いて、自ら調べ、問題解決できるという認識を持たせているようだ。

#### 4) サンリアンドロ高校

9年生から12年生までの生徒が在籍している。全校生徒約2700名。

「キャリアパスウェイプログラム」

地元の企業などと高校が連携し、次世代の人材育成のため、社会で役立つスキルを身につけるためのプログラム。高度なものづくり、ICT、デジタルメディア、バイオメディカルなどのコースがある。また、生徒たちが学んだことが実際の世の中でちゃんと使えるようなものかどうか、授業で扱っている技術などが現行の一番新しい標準に合っているかどうかをプログラムコーディネーターが確認し、教員の授業改善につなげている。

授業期間中の放課後や夏休みにインターンシップを行っている。(短い場合4週、長い場合6~8週)他に、College&Career DAYがあり、地元のプロの職業人たちを大勢招聘し、生徒は、現場でやっていることを直接聞き、知ることができる。また、キャリアセンターには、専属のコーディネーターが常駐しており、生徒が相談しやすい環境が整っている。

高度なものづくりコースでは、CADや3Dプリンターを使って模型を製作していた。デジタルメディアコースには、TVスタジオのような実習室があり、TV番組を作る実習を行っていた。また、パソコンでビデオ製作の課題に取り組んでいるクラスもあった。バイオメディカルコースでは、生理学や解剖学に基づき、鑑識の実習を行っていた。



#### 5) 研修を終えて

アメリカの学校を視察して、この国は多様性であるが故にコミュニケーション能力が重要になってくるのだと実感した。小学校から英語、第二言語の習得のみならず、人との関わり方を身につけさせる必要がある。これは、日本の子供たちにおいても重要事項だと思われる。

キャリア教育においては、先進的である印象を持った。かなり早い段階から長期間継続して、経過観察しながら将来について考えさせていること、地域や多くの企業が、次世代の人材育成に積極的であること等、子供たちに社会との関わりを意識させ、将来設計させている。

この視察を通して、改めて、企業や社会のニーズに合わせた人材育成を行い、送り出さなければと強く思った。また、私自身教師としての専門性を高め、今後の社会構造の変化に対応できる教育の在り方について考えていきたいと思う。

最後にこのような研修の機会を与えて下さった富山経済同友会の皆様、富山県教育委員会の皆様に感謝申し上げます。